

日野青い鳥福祉会
2022年度 本部事業報告

中期 計画 との 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・この間の第3期中期計画の検討で、法人の基本的な支援観に焦点を当て整理してきた。特に生活支援の土台を関係論で深める姿勢を鮮明にした。 ・支援視点は全体像の把握のもとに、プラス面への着目から「自分のことが好き」に焦点を当てる関わりを提供する。ここに穏やかな人柄が形作られると位置付けた。
事業 概要	<ul style="list-style-type: none"> ① あおいとり日野・生活介護（定員 30 名・現員 26 名） ② あおいとり上田・生活介護（定員 20 名、現員 17 名） ③ GH 青い鳥（CH 青い鳥 4 ユニット 20 名、GH 青い鳥 1 ユニット 7 名）
重点 目標 と 実績	<p>（1）2 生活事業所の緊密な連携のもとに進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営にあたり送迎等の相互協力体制がスムーズに遂行された。行事等では共同開催と個別開催の整理ができてきた。 ・新規利用者なし、利用者転出（地方移住等）で空き状況が増えた。年度途中の利用者実習等受け入れ態勢を整え、日野では 3 月実習ー4 月入所が決まった。（また'24 年度卒生の実習受け入れが決まっている） <p>（2）プロジェクト体制：働きやすい職場づくり・支援土壌の整え</p> <p>①2040 年問題プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者減／収入減、最賃改正等の財務指標の影響を確認した ・工賃：家族会要望で一律給に。2 事業所を同程度に調整する配慮を続けた <p>②エピソードプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員自己紹介、19 集、一泊旅行特集、21 集を発行した ・エピソードまとめの効果＝観察、洞察、分析姿勢が養われている、さらに実践力を高める志向を確認した <p>③ パン会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造数、原価、粗利率等から適切な製造計画へと波及させてきた ・売上額重視の運営から社会参加の場として捉え直し、多様な形態を開拓し始めた ・北口店＝5 年後駅前再開発に伴い移転、パン事業の新たな模索が始まった <p>（3）人材育成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部講師の研修に切り替え、部署ごとにきめ細かく研修会を持った ・「支援のまなざし」輪読会を開始、非常勤も月 1 回、研修該当に組み込んだ <p>（4）適切な労務管理をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の待遇改善を進めた一役職手当の改正、時間外申請単位の改正、都最賃改正に連動、嘱託の最賃との関連を修正した

	<p>(5) 親の会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人・親の会Mは、ざっくばらんな意見交換の場として2回開催した ・親の介護力の低下に伴い生ずる心配事を法人が介在してすすめる
法人課題	<ol style="list-style-type: none"> 1、HP リニューアルされ、見やすくなった、情報の更新に努力をしていく 2、防災体制の課題－発災時の命題「自分の命は自分で守る」の現実的な課題を突き付けられた－あんずクラスターの折、現実的な担い手不足 3、ガイヘル研修等は企画したものの中止とした
法人運営	<p>理事会・評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 事業計画、予算案等 評議員会－決算報告等 ・11月 上半期事業報告、財務報告等 ・3月 2023年度事業計画、予算案等 <p>*この間、法人活動の柱である職員紹介集、利用者エピソード集などを配布し、現場の息吹をお伝えした。</p>

GH 青い鳥（共同生活援助）

<p>事業概要</p>	<p>① CH青い鳥－女性：さつき、みずき、男性：さくら、こぶし 計 20 名、SS1 名 ② GH青い鳥－混成：あんず 7 名 ③ 移動支援</p>
<p>基本方針</p>	<p>*自分らしい暮らし方を見出す ①穏やかな暮らし＝安定した生活リズム、仲間と折り合う ② リフレッシュ＝明日の活力を養い、自分らしく暮らす ③大事にされ張りのある暮らし＝自分の役割を身につけ、気持ちよく取り組む</p>
<p>‘22 年度概要</p>	<p>① 退入所 2 名 あんず 9 月退所、11 月入所－親の地方移住（支援区分 5 ⇒ 3） こぶし 3 月退入所－入所利用（支援区分 6 ⇒ 5） ② 職員配置の課題 ・シルバー世代は社会経験を生かして生活支援の主力となりうる。 ・一方、家庭状況で不安定さを伴い、シフト確保の難しさが付いて回る。 ③ 八王子労基署からの是正勧告 ・就業規則の未届け、夜勤者の健康診断 2 回の未実施について是正を求められ、対処した。 ③ 実費負担の精算（食事、水光熱、日用品） ・概算的に 4 段階の利用率で負担経費を割り出す ・精算結果＝西平は、公共下水道未整備のため割安で繰越金が出ている あんずは利用率の高さ、公共下水道のため、@35,000 円の追徴になる （物価高の影響で 2023 年度の定期徴収額の検討に入る）</p>
<p>重点目標と現状</p>	<p>*穏やかな暮らしをサポートする 1) リフレッシュの充足具合を高める ・自分なりの過ごしの時間、癒しの場に留まらず、人付き合いの中にこそ元気の活力が生まれることに注目していく 2)自分らしい過ごし ・得意、好き、関心、持ち味を発揮する場が用意され、折々に発揮できる環境が穏やかな暮らしの上で大事になる *こうした視点を改めて確認をする時間とした</p>

事業実績	<p>① 利用率 CH青い鳥-70.2% GH青い鳥-91.3% 全体 - 75.7%</p> <p>② ヒヤリハットー薬関連のミス6件 利用者間の手出し、もの投げ5件 転倒等2件 等</p> <p>③ 健康管理ー11月GHメンバー陽性ー接点のある方18名自宅待機 ワクチン接種不可の方2度目の陽性 12月あんずーコロナクラスター 女性利用者4名、職員3名感染</p> <p>④ 会議などー家族会3回、職員会議毎月、研修毎週、非常勤研修毎月</p> <p>⑤ 防災訓練ー1月1で玄関までの避難訓練をユニットごとに実施</p> <p>⑥ 移動支援ー研修開催できず、事業としても一部の活動に終わった</p> <p>⑦ 短期入所ーコロナ禍期間は、生活実態を把握している法人利用者に絞っての利用としたー利用者数6名、利用率51.8% (50%を上限とする)</p>
------	--